

移住風景

—八頭町地域おこし協力隊活動の現場から—

旅の玄関口

観光列車「昭和」の運行開始から四カ月余り。沢山のお客さまが若桜谷の小旅行を楽しまれています。鳥取県内のツアーの一環としていらっしゃる方が主ですが、鉄道マニアの「鉄っちゃん」や、帰省したお孫さんと一緒に乗られる方、若桜鉄道と沿線風景を写真に収めたい方等々、「昭和」という新車両を中心に新たなドラマが生まれています。私は普段、郡家駅にある観光案内所で八頭町の案内をしています。「鍛冶屋温泉に行きたい」「パンケーキが食べたい」「今日泊まれる宿はあるか」「ホテルの見頃はいつか」等々、お問い合わせの内容は様々ですが、お客さまが何を求めているのか直接聞くことが出来るので、何があつて何が足りていないのか未だに勉強の日です。



観光案内所のある郡家駅は、八頭町の玄関口だと思っています。丁寧に案内して、気持ち良く「いつてらっしゃい」と「おかえりなさい」を言えるよう、今後も頑張っていきたいと思えます。

佐藤 竜也

元気な農業

先日、道の駅はつとうのお客さんと「元気な農業とはどのような状態をいうのか」という話になりました。農業従事者の平均年齢や数、生産高などの意見が出ましたが、「皆が農業を楽しくやり続けている雰囲気があることではないか」という言葉が印象に残りました。何気ない日常のひとコマではありませんでしたが、とても大事なことのように感じました。

私はいま、八東にどのような果物があるか調べています。最近では、日田の圃場を視察させていただき、数種類のウメに加え、ミカンやユズなども生産されていることを知りました。また、店内を見れば、果物を使ったジャムの種類も十種類を超えています。それぞれ生産量だけを見れば少ないのかもしれない



松下 聡子

○協力隊フェイスブック <https://www.facebook.com/yazukyouryokutai/>

○協力隊からのお知らせ

・7月28日(土)18:30~20:30「レコード音楽会」(於:道の駅はつとう) <松下>

●移住風景バックナンバー 八頭町役場のホームページからカラーでご覧いただけます。